

保育者養成校学生の持つ乳幼児子ども観

保育者と保育の原理を探るための一研究

渡 辺 直 人

保育者養成校学生の持つ乳幼児子ども観 保育者と保育の原理を探るための一研究

Child Care Teacher Training School Students' Views of Infant Children

A Study to Explore the Principles of Caregivers and Childcare

渡辺 直人

Naoto Watanabe

要 約

本研究では現代の子ども観を明らかにすべく、保育士養成校学生を対象に、それぞれが持つ子どものイメージを自由記述により回答を求めた。具体的には、乳児観、幼児前期観、幼児後期観を明らかにした。方法はテキストマイニングを行った。

調査の結果、乳児の特徴として、[1]保育者や大人に身の回りの世話をしてもらう時期、[2]愛着関係を築く時期、[3]可愛い存在とみられる時期、[4]ハイハイ、ミルク、泣くという動きの特徴がある時期の 4 つがみられた。幼児前期の特徴は、[1]自我が発達し、芽生える時期、[2]遊びがはじめる時期、[3]遊びが生活となる時期、[4]友達との喧嘩が始まる時期、[5]運動が活発化する時期、[6]伝える、話すことが出来るようになる時期、[7]色々なことができるようになる時期の 7 つがみられた。幼児後期の特徴は、[1]喧嘩が増えるが、自分たちで解決し、理解状況を理解する時期、[2]活発に遊ぶ時期、[3]年下や様々な人とかかわり、相手の意見を聞くこともできる時期、[4]遊びが集団になる時期、[5]身の回りのことは自分でできるようになる時期の 5 つがみられた。

目的

現在、我が国日本においては保育・幼児教育に関して様々な問題が指摘されている。不適切な指導は度々報道されることもあり、例えば、2015 年に上越市で、独自の指導法により子どもを死に至らしめ、逮捕された件もあった。また、2022 年には静岡県にて体罰で保育士が逮捕された事件もあるなど、不適切な指導は未だ課題となっている。

また、夏場には毎年のように子どもを車内に置き去りにする事件も相次いでいる。保育所送迎バスで子どもを置き去りにして亡くしてしまった事件は記憶に新しい。子どもに関する問題は挙げるに暇がなく、まだまだ深刻な現状にあるといえよう。

子どもに関する問題に関して、特に虐待に着目したい。虐待・ネグレクトは未だ深刻な問題であり、第一にあがる問題であろう。虐待の認知件数は減少すること、なく毎年のように増えている。この増加の理由として、虐待に関してより認知され

るようになったからであるという社会的状況にあると言われて

いるが、この理由が挙げられてから長い日が経っている。また、データを概観すると、虐待の件数は毎年のように増加している。その背景には虐待の認知の広がりもあるだろうが、過去と比し「子どもに対する認知」、すなわち「子ども観」が変化してきているのではないかと考える。

子ども観に関して

子ども観に関する研究は、フィリップ・アリエスが述べた「小さい大人」が有名であろう。アリエスは、中世以前の西洋絵画の特徴(背丈の違い)を根拠に、子どもは小さい大人とみなされていたと述べている。だが、昨今では見直されており、実際には子どもは小さい大人としてはみなされていなかったことも多くの論者から指摘されている。

子ども観の変遷に関してはド・モースの研究が有名である。

ド・モースは以下のように述べている。

①子殺しの様相(古代～4 世紀)投影的反応、反転的反応共に大。子殺しは前者の、少年に対する性行為は後者の、典型的な例とされる。

②子捨ての様相(4～13 世紀)反転的反応は減少するが投影的反応は依然として大。子どもを乳母に預けたり、修道院に入れたり、徒弟奉公に出すなどのこと、すなわち子捨てが行なわれる。

③対立感情共存的様相(14～17 世紀)子どもは親の感情的世界に入ることを許されるようになるが、同時に彼は依然として危険な投影を担う存在であり、従って子どもを作り変えることが重要な課題となる。また他方では、マリア像に見られるように、優しい母親のイメージが定着する。

④侵入の様相(18 世紀)反転的反応は消失、投影的反応も大幅に減少。親は子どもの内蚕に入りこみ、その内面をコントロールしようとする。体罰やスウォドリングの廃止、排せつのしつけの開始、マスターベーションの禁止、母親による注意深い保護、小児科医の誕生等が、この時期に見られる特徴である。

⑤社会的様相(19～20 世紀半)子どもの意志の克服よりも、その指導、社会化が課題になってくる。

⑥助力的様相(20 世紀半～)子ども自身の方が親よりも、各発達段階における欲求をよく知っている、ということが前提とされる。親は子どもをしつけるのではなく、その欲求を理解し、それを満たそうとするのであり、そのために多大なエネルギーと時間を費す」

(鳥光(1981)より引用)

特に近代においてはルソーが子ども観の変遷上では重要な人物とされる。ルソーが著した『エミール』によって「子どもの発見」が行われたとされる。鳥光はルソーの『エミール』に関して、母親の原点回帰が行われたという見方を示した。それ以前は、貴族社会において子どもの養育は乳母が担当していたという。小さい大人としての子どもは今では信頼された理論ではないが、過去には母親が実際に養育をしない現状はあったことは史的研究からも明らかとなっており、現代のような「権利が保障され、庇護・教育され、社会の後継者といった存在」というような価値観とは異なった子どもに対する認識、すなわち子ども観があったと考えられる。

このように、子どもに対する認識は時代が進むに伴い変化してきていると考えられる。では、現代の子ども観はどのような研究があるだろうか。子ども観に関する先行研究は多くの調査が存在するが、その手法に関しては様々である。子ども観に関して学ぶ保育系を対象とするため、Cinii Articles で「子ども観 保育」と検索し、先行研究を概観した。多くの調査において、質問紙調査法を用いた量的研究が見られた(松永ら、2002;矢田ら、2007;毛利、2019 など)。しかしながら、量的研究では設定した質問項目の範囲しか結果がみられない。どのような考え・意識・イメージがあるかを調査する以上、質問項目に依存する量的研究ではなく、自由記述による質的研究が望ましいと考える。だが、先行研究では質的研究による調査はなく、対象属性を限定せずに調べても吉澤(2012a;2012b;2011a;2011b)による調査4報が存在するのみであった。

研究の目的

上述したよう、子ども観は時代が進むに伴い変化するものである以上、現代の子ども観を探ることは、未来の子ども学研究において重要な一資料になり得よう。以上、本研究では、現代の子ども観を明らかにする。具体的には子どもといえども幅が広いので、本研究では、子ども観を、乳児観、幼児前期観、幼児後期観にわけ、調査を行った。

調査方法

乳児観、幼児前期観、幼児後期観に関して自由記述にて問うた。それぞれの結果を以下で述べる。分析方法はいずれもテキストマイニングを行った。

テキストマイニングとは、昨今の質的研究、テキスト分析において多く用いられている手法である。辞書では「文章を対象としたデータマイニング。ソーシャルメディアやウェブ上の口コミなどの大量の文字情報を自然言語処理などで分析し、有用な情報を抽出する技術を指す。」(デジタル大辞林より引用)と定義されている。コンピュータによって分析されるため、目視で分類するよりも客観的であり、昨今では使用されることも多くなっている。本研究では UserLocal 社のツールを使用しテキストマイニングを行い、形態素解析、共起回数、クラスタ分析を行った。また、乳児観に関しては分析の際には類似の言葉は統一した。母乳はミルクに、かわいいを可愛いに統一した。

語の頻出度、③階層的クラスタリングの結果を示す。

①共起回数

テキストマイニングを行い、共起回数を算出した。「乳児」と共起したワードを以下に示す。

「泣く」、「できる」、「大人」、「時期」、「必要」、「ミルク」、「成長」、「赤ちゃん」、「ハイハイ」、「飲む」、「期」、「イメージ」、「いける」、「生きる」、「多い」、「言葉」、「身の回り」、「母親」、「いく」、「生まれる」、「手助け」、「一緒」、「過ごす」、「歩ける」、「始める」、「寝る」、「半分」、「小さい」、「愛着」の順で「乳児」と共起していた。

②単語の頻出度

次に、本調査の単語の頻出度を求めた。名詞・動詞・形容詞にわけ、以下に示す。名詞では、「乳児」、「時期」、「必要」、「ミルク」、「母親」、「赤ちゃん」、「成長」、「大人」、「ハイハイ」、「言葉」、「期」、「イメージ」、「保育者」、「身の回り」、「愛着」であった。

動詞では、「泣く」、「できる」、「飲む」、「生まれる」、「いく」、「歩く」、「過ごす」、「座る」、「生きる」、「いける」、「築く」、「伝える」、「話す」、「始める」、「あげる」であった。

形容詞では、「可愛い」、「多い」、「小さい」、「あたたかい」、「大きい」、「著しい」、「やわらかい」、「ほほえましい」、「柔らか

い」、「はやい」、「難しい」の順で多かった。

③階層的クラスタリング

クラスター分析(階層的クラスタリング)の結果、以下のクラスターが明らかとなった(図 2)。図を概観し、加えて上記の①、②の結果を合わせ、乳児の特徴を垣間見た。

- [1]保育者や大人に身の回りの世話をしてもらう時期
- [2]愛着関係を築く時期
- [3]可愛い存在とみられる時期
- [4]ハイハイ、ミルク、泣くという動きの特徴がある時期

調査[2] 幼児前期観

調査方法

2020年10月、授業終了後に自記式アンケート調査を行った。本調査では Google Forms を使用し、オンラインで回答を得た。調査対象者は、関西地方 A 短期大学 2 年生 90 名である。

調査内容は、幼児前期(1-3 歳)はどのような存在だと考えているか、考察した内容を自由に記入するよう伝えた。

結果

調査を行った結果、2984 文字収集した。以下、①共起回数、②単語の頻出度、③階層的クラスタリングの結果を示す。



図3 幼児前期観ワードクラウド

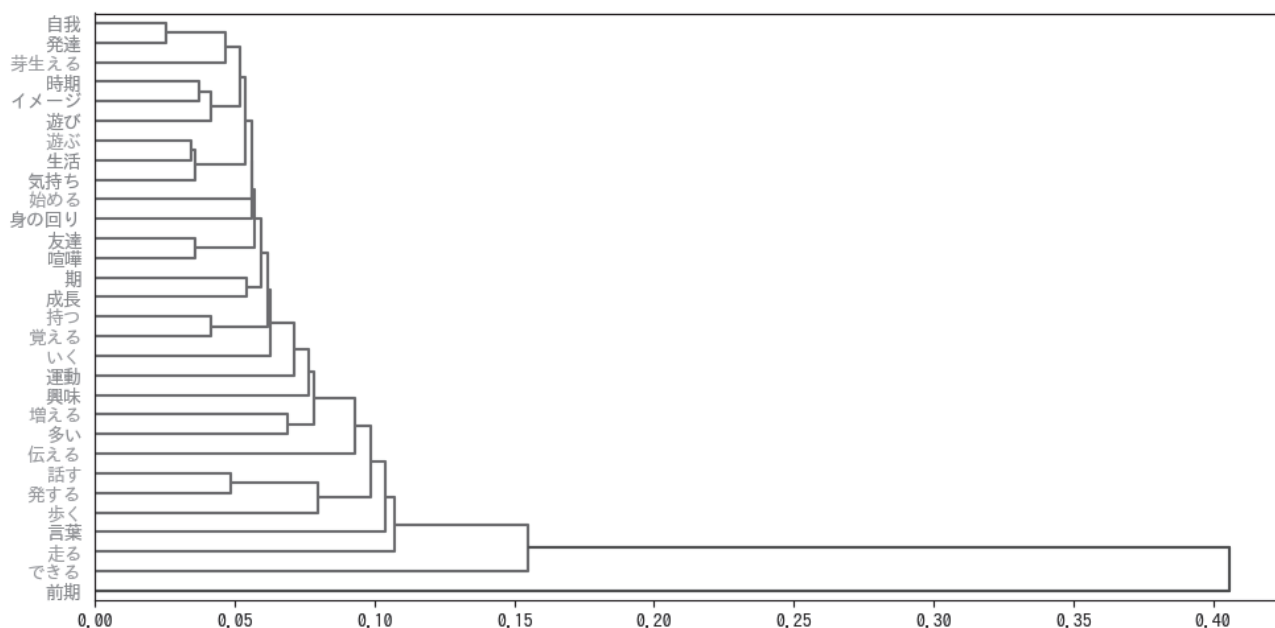


図4 幼児前期観 階層的クラスタリング

「少ない」、「高い」、「よい」、「いい」の順で多かった。
注)前期、期、なるい、は除く。

①共起回数

テキストマイニングを行い、共起回数を算出した。「前期」と共起したワードを以下に示す。

調査の結果、前期と共起していた単語は「できる」、「言葉」、「増える」、「期」、「話す」、「興味」、「歩く」、「自我」、「始める」、「発達」、「芽生える」、「時期」、「生活」、「友達」、「伝える」、「いく」、「イメージ」、「人見知り」、「走る」、「気持ち」、「成長」、「発する」、「周り」、「いろいろ」、「覚える」、「1人」、「持つ」、「物」、「大人」の順で「前期」と共起していた。総共起回数は1047であった。

②単語の頻出度

次に、本調査の単語の頻出度を求めた。名詞・動詞・形容詞にわけ、以下に示す。

名詞では、「言葉」、「自我」、「興味」、「友達」、「発達」、「喧嘩」、「時期」、「イメージ」、「気持ち」、「身の回り」、「人見知り」、「運動」、「成長」、「遊び」、「大人」、「生活」、「1人」の順で多かった。

動詞では、「できる」、「増える」、「話す」、「いく」、「始める」、「歩く」、「芽生える」、「伝える」、「走る」、「発する」、「持つ」、「遊ぶ」、「覚える」、「食べる」、「示す」の順で多かった。

形容詞では、「多い」、「著しい」、「大きい」、「うまい」、「強い」、「かわいい」、「伝わりにくい」、「なるい」、「近い」、「上手い」、

③階層的クラスタリングの結果

クラスター分析(階層的クラスタリング)の結果、以下のクラスターが明らかとなった(図4)。これを基に、上記の①、②の結果を合わせ、幼児前期の特徴を垣間見た。

- [1]自我が発達し、芽生える時期
- [2]遊びがはじめる時期
- [3]遊びが生活となる時期
- [4]友達との喧嘩が始まる時期
- [5]運動が活発化する時期
- [6]伝える、話すことができるようになる時期
- [7]色々なことができるようになる時期

調査[3] 幼児後期観
調査方法

2020年10月、授業終了後に自記式アンケート調査を行った。本調査ではGoogle Formsを使用し、オンラインで回答を得た。調査対象者は関西地方A短期大学2年生90名である。

調査内容は、幼児後期(4-6歳)はどのような存在だと考えているか、考察した内容を自由に記入するよう伝えた。

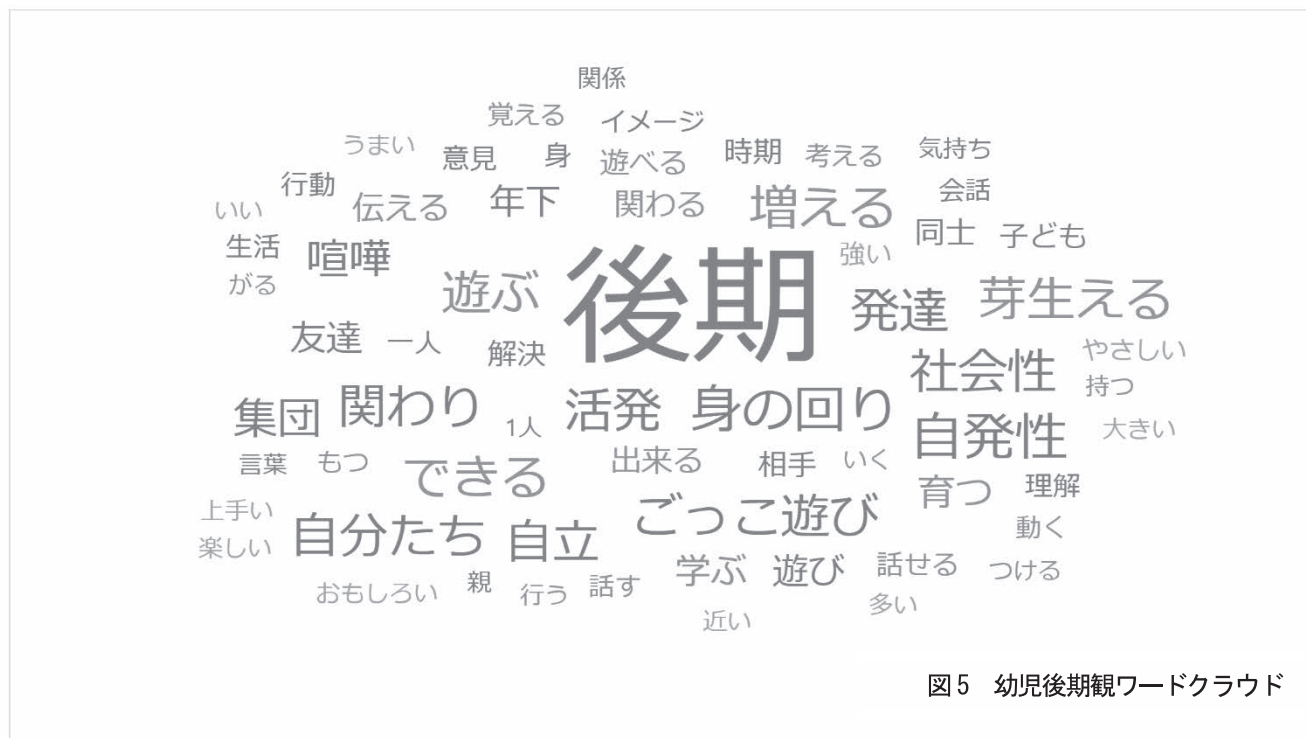


図5 幼児後期観ワードクラウド

結果

調査を行った結果、3553文字収集した。以下、①共起回数、②単語の頻出度、③階層的クラスタリングの結果を示す。

①共起回数

テキストマイニングを行い、共起回数を算出した。「後期」と共起したワードを以下に示す。

調査の結果、「できる」、「友達」、「遊ぶ」、「増える」、「身の回り」、「遊び」、「時期」、「活発」、「一人」、「期」、「喧嘩」、「自分たち」、「理解」、「話す」、「生活」、「伝える」、「行動」、「意見」、「相手」、「関わり」、「集団」、「イメージ」、「関係」、「もつ」、「気持ち」、「同志」、「1人」、「動く」、「考える」、「社会性」、「多い」、「身」の順で「後期」と共起していた。

②単語の頻出度

次に、本調査の単語の頻出度を求めた。名詞・動詞・形容詞にわけ、以下に示す。

名詞では、「後期」、「友達」、「身の回り」、「遊び」、「相手」、「喧嘩」、「時期」、「活発」、「生活」、「一人」、「気持ち」、「自分たち」、「集団」、「期」、「理解」が抽出された。

動詞では、「できる」、「遊ぶ」、「増える」、「考える」、「伝える」、「話す」、「つける」、「いく」、「育つ」、「学ぶ」、「関わる」、「もつ」、「動く」、「覚える」、「行う」が抽出された。

形容詞では、「強い」、「多い」、「うまい」、「やさしい」、「おもしろい」、「近い」、「上手い」、「大きい」、「楽しい」、「いい」が抽出された。

③階層的クラスタリングの結果

クラスター分析(階層的クラスタリング)の結果、以下のクラスターが明らかとなった(図6)。これを基に、上記の①、②の結果を合わせ、幼児後期の特徴を垣間見た。

[1]喧嘩が増えるが、自分たちで解決し、理解状況を理解する時期

[2]活発に遊ぶ時期

[3]年下や様々な人とのかかわり、相手の意見を聞くこともできる時期

[4]遊びが集団になる時期

[5]身の回りのことは自分でできるようになる時期

まとめ

以上、乳児では[1]保育者や大人に身の回りの世話をしてもらう時期、[2]愛着関係を築く時期、[3]可愛い存在、[4]ハイハイ、ミルク、泣くという動きの特徴があることがわかった。幼児前期では[1]自我が発達し、芽生える時期、[2]遊びがはじめる時期、[3]遊びが生活となる時期、[4]友達との喧嘩が始まる時期、[5]運動が活発化する時期、[6]伝える、話すことが出来る

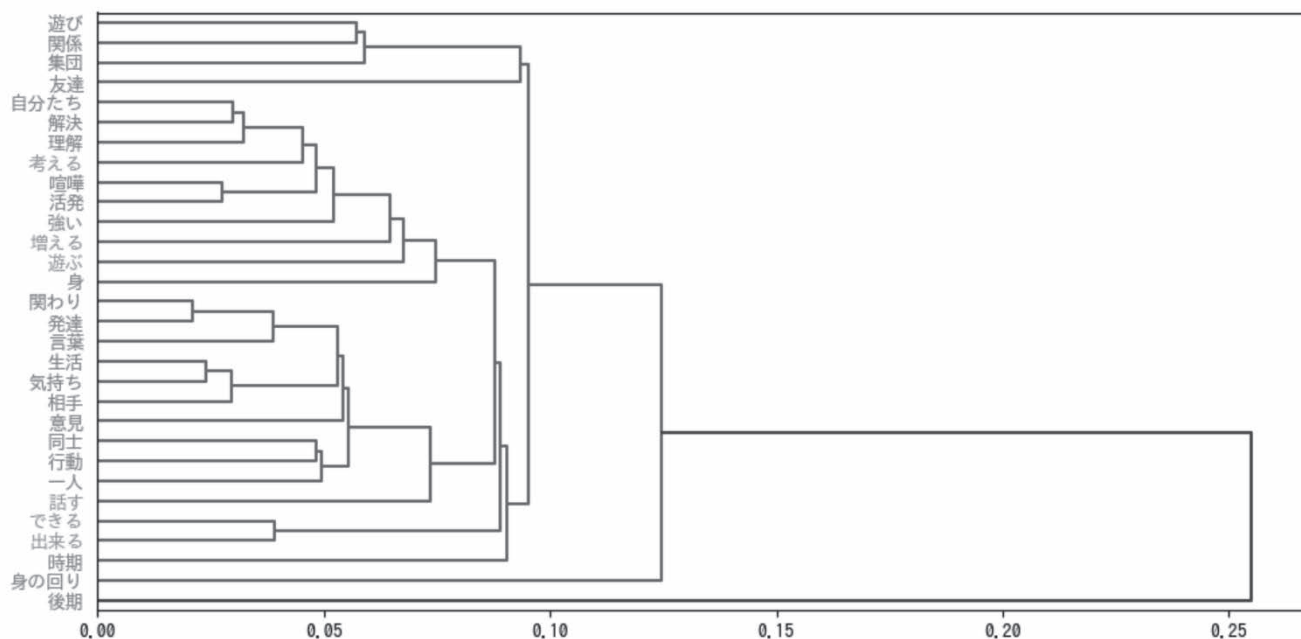


図6 幼児後期観 階層的クラスタリング

よくなる時期、[7]色々なことができるようになる時期があることがわかった。幼児後期では、[1]喧嘩が増えるが、自分たちで解決し、理解状況を理解する、[2]活発に遊ぶ、[3]年下や様々な人とかかわり、相手の意見を聞くこともできる、[4]遊びが集団になる時期、[5]身の回りのことは自分でできるようになる、という特徴があることが分かった。

これらのことに関して、発達心理学の観点から見ても相違ない結果となったのではないかと考える。乳児はまさに養育者と信頼関係を結ぶ時期であるといえよう。幼児前期では粗大運動が徐々にできるようになり、様々な行動が増え、遊びが始まり、言葉も少しずつ伝えられるようになる時期である。幼児後期ではそれらがさらに高度化し、生活習慣もできてくる時期である。発達の観点から見ても重なる点は多いと考える。

考察・課題

本研究では、子ども(乳児、幼児前期、幼児後期)のイメージを明らかにするべく、自由記述によるアンケート調査を行った。

上記の結果に関して、発達心理学の観点からも相違ない結果となった。年齢相応の子どものイメージをもっていることがわかった。ただし、保育者養成校学生を対象としたため、基本的な発達の特徴は学習しており、実習も1度経ていることから、様々な知識を習得している。その潜在意識というより、学

習知が示された結果となったのではないかと考える。

ただし、調査対象者数が限定的であり、また属性も保育士養成校学生であることから、この結果はあくまでも一般感覚を示したのではなく、保育を専攻している学生の感覚を明らかにしたものであるため、今後はその他属性へと対象を広げ、調査を行っていきたい。

また、本調査はテキスト分析の一つであるテキストマイニングを行った。テキスト分析は定量的ではなく定性的である。テキストと数値には大きな違いがある。小木(2015)はテキスト分析に対して以下のように述べている。

「テキストを対象とした分析の場合、その数値的意味以外に「ことば」がもつ意味(暗黙知)といったものがその分析に大きく影響し、またその「ことば」の解釈は読み手によって異なることがその結果の活用に難しさも与えている。例えば、数値データ 3.5 という値はそれ以上でも以下でもなく 3.5 である。——中略——しかし、テキストデータについては、「ことば」自体が複数の意味を持つだけでなく、状況によってそれがもつ意味が変化し、確定することができない。所謂あいまい性を保持し続けるのである。これにより分析途中の処理の妥当性や、結果の解釈が困難になる局面がある。」

すなわち、数値で表せられるものであれば、それ以外の意

味を持たないが、テキストその言葉自体に多くの意味を持つ。そのため、その言葉がどのような意図で使用されたか、それはただ結果をみるだけでは解釈・判断が難しいといえ、そしてこれはテキスト分析自体の課題であるといえよう。抽象な解釈を防ぐためにも、今後は定量的調査も視野にいれ、更なる考究を行いたい。

参考文献

- コトバンク. デジタル大辞泉「テキストマイニング」の解説.
<https://kotobank.jp/word/%E3%83%86%E3%82%AD%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0-684251>, 2021 年 11 月 26 日取得.
- 松永しのぶ, 伊藤嘉奈子, 坪井寿子, 田中奈緒子(2002). 保育所実習が学生の子ども観、保育士観におよぼす影響 I. 子ども観の変化. 日本教育心理学会総会発表論文集, 44(0), 159.
- 毛利泰剛(2019). 保育実習経験による保育者観と子ども観の変化の検討 教員養成課程の学生との比較を通して. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編, (20), 53-60.
- 鳥光美緒子(1981). 近代社会と子ども観 一最近の子ども史研究の動向から一. 教育学研究, 48, (3), 235-244.
- 小木しのぶ(2015). テキストマイニングの技術と動向. 計算機統計学, 28, 1, 31-40.
- 矢田昭子, 笠柄みどり, 吉田由美(2007). 保育所実習が看護学生の子ども観に及ぼす影響保育所実習が看護学生の子ども観に及ぼす影響. 島根大学医学部紀要, 30, 35-42.
- 吉澤千夏, 大瀧ミドリ(2011a). 教員養成課程在籍学生の子ども観に関する一考察. 上越教育大学研究紀要, 30, 221-233.
- 吉澤千夏(2011b). テキストマイニングによる子ども観の構造分析(1). 一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集, 63(0), 165-165.
- 吉澤千夏, 大瀧ミドリ(2012a). 教員養成課程在籍学生の子ども観に関する一考察(2)「かわいい」をめぐる. 上越教育大学研究紀要, 31, 277-284.
- 吉澤千夏(2012b). テキストマイニングによる子ども観の構造分析(2). 一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集, 64(0), 135.